

## VLBI 懇談会役員会 議事録

日時:5月18日10:00~12:15

場所:国立天文台 三鷹 輪講室

### ■ 出欠(50音順、敬称略)

- ・ 出席者:青山(極地研)、朝木(JAXA)、梅本(NAOJ)、面高(鹿児島大)、川口(NAOJ)、黒田(GSI)、関戸(NICT)、徂徠(北海道大)、高羽(岐阜大)、名越(山口大)、藤沢(山口大)、三好(NAOJ)、村田(JAXA)、米倉(茨城大)、
- ・ TV会議参加者: 中川(鹿児島大)、半田(鹿児島大)
- ・ 欠席者: 中井(筑波大)、松本(東海大)

### ■ 議事

#### I. 会長挨拶(面高)

#### II. 報告事項

##### 1. 機関報告

○NICT 機関報告(関戸):資料に沿って報告

Q:駆動系更新について3年もかかっているのはなぜか

A:予算が一気に付かないことが時間をリミットしている。追尾精度については、千分の1度のトラッキング精度をめざしているが、大型アンテナを扱ったことがある業者でないので、注意しながらやっている。以前のような43GHzのポインティング精度が出ない原因は、FS9からのコマンドを送るタイミングに関連していたのではないかと考えている。

Q:11mアンテナのアジマスエンコーダエラーは振動が原因か?

A:物理的な計測角度とエンコーダ出力角度にヒステリシスが生じていた。

○東海大機関報告(代読 関戸):資料に沿って報告

○地理院機関報告(黒田):資料に沿って報告

Q:石岡-筑波は光で接続するのか?

A:石岡-つくば 間 SINET-4で結ぶ(ダークファイバーを使う予定である)

Q:つくば32mは地震の影響はなかったのか?

A:なかったと考えている。

○JAXA/宇宙研機関報告(村田):資料に沿って報告

○山口大機関報告(藤沢):資料に沿って報告

○北海道大機関報告(徂徠):資料に沿って報告

○岐阜大機関報告(高羽):資料に沿って報告

○茨城大機関報告(米倉):資料に沿って報告

○国立天文台水沢VLBI観測所機関報告(梅本):資料に沿って報告

○極地研機関報告(青山):資料に沿って報告

コメント:南極だと混信の影響が少ないので、VLBI2010 で問題となっている 3GHz 以下の RFI の問題が少なく広帯域が実現しやすいのではないか?

○鹿児島大機関報告(中川):資料に沿って報告

中西さんがイギリスから帰国し、今井さんが西オーストラリア大へ4月から1年留学している。

○大学連携の報告(藤沢):資料に沿って報告

Q:電波専門委員会のレビューで大学連携プロジェクトについてどんな意見があったのか?

A:VLBIの大学連携に留まらず、より広い分野の大学の大学連携という方向で、取り組んでいくとよいという意見があった。

2. VLBI運営小委員会報告(面高):資料(第37回VLBI運営小委員会アジェンダおよび抄録)に沿って報告。

Q:今井さんからV懇にメールが出ているが、議論が間に合わないのではないか?

A:方向は変わらない。

3. 東アジアVLBI観測網の現状と今後(面高):資料に沿って報告

4. SgrA\*短基線VLBIフラックスモニタ計画(朝木):資料に沿って報告

5. 会員、会費納入状況について(事務局:関戸):出席者に会員のリストを配布するので、会費滞納のかたおよび情報変更がある場合各機関で確認して報告をお願いしたい。

### III. 議論

1. 次回VLBI懇談会シンポジウム開催および時期について(事務局:関戸)

NICT は 1999 年以来シンポジウムを開催していないことから、シンポジウム開催地:NICT 小金井、日時:12月の第一候補10日の週、第二候補:17日の週の方で調整を行うことが決定された。同様に 1996 年以来開催地となっていない国土地理院は 2014 年に開催する方向となった。

2. 学生V懇シンの提案(名越)

学生VLBI懇談会シンポジウムを VLBI 懇談会シンポジウムと接続して開催してほしい、との提案がなされた。既に十数名の学生の参加が見込まれている。学生セッションでは原則として学生のみ参加として自由闊達な議論が遠慮なく出来るようにしたい。多くの賛成コメントが出たのち、具体的な開催方法や旅費の予算申請など、具体的な事務手続きに付いては、天文台やシンポジウム開催地の NICT と相談してすすめることとなった。

3. VLBI将来計画WG(三好):資料(VLBI分野に於ける将来科学計画WG提案)に沿って説明が行われた。スペース VLBI の有意義な点は変わらない。10-20 年掛かるかもしれないが、VLBI 以外の研究分野の意見も入れながら、今から電波衛星についての検討を開始する必要がある。

○ VLBI懇談会はVLBI技術を基本としてそれぞれの研究グループがそれぞれの研究を行っている。まずWGで議論しなければならないのは天文学。VSOP2プロジェクトの評価中で、電波天文コミュニティからの支持が問題となったが、その「community」が何を指すか、よく考える必要がある。

○ 初代 VLBI 懇談会事務局長の頃、モチベーションは多くの技術的共通点を持つ測地 VLBI と天文の VLBI を一緒にやろうということであった。

継続して検討することとなり、次回の VLBI 役員会を含め、検討が進んだ段階で再び議論を行うこととなった。